

モンシロチョウの育ち方



モンシロチョウがキャベツの葉に卵を産みます。はなれた所にひとつずつ産みます。



和歌山市の四季の郷公園の無農薬栽培をしている畑です。モンシロチョウがたくさん飛んできて、アブラナ科の作物（キャベツやブロッコリー）の葉に卵を産みます。農薬を散布すると虫はほとんど死にます。



上下に長い紡錘形の卵を産みます。日が経過すると色が濃くなってきます。1週間ほどで幼虫がかえります。（孵化という）



2齢の幼虫です。キャベツなどの葉をたくさん食べて大きくなります。ある程度大きくなると、皮を脱ぎ（脱皮という）また一回り大きくなります。脱皮することに齢が大きくなります。右の写真の幼虫は、4齢です。幼虫の時にアオムシコマユバチに寄生されて死んでしまう幼虫もたくさんあります。



5齢幼虫の次にさなぎになります。（蛹化という）

卵からかえり約2週間でさなぎになります。



まん中の幼虫は、ヨトウガの幼虫です。さなぎの中では体を一度分解して、成虫になれるように羽や足など体を作りなおしています。



日が経過すると色が濃くなってきます。



さなぎのぬけがらです。さなぎになり、約1週間で羽化して成虫になります。



成虫は、花の蜜を吸い成長します。やがてオスとメスが交尾をしてメスがアブラナ科の作物に卵を産みます。5月中旬から2世代目の産卵が始まります。